

2025 年 8 月 28 日

各 位

株式会社福井銀行

経済産業省「中小企業に対する支援機関等のGX支援体制強化事業」の採択について

株式会社福井銀行（頭取 長谷川 英一）は、経済産業省が実施する「中小企業に対する支援機関等のGX支援体制強化事業」において、「B2B 産業集積向けプログラム」コースの代表機関として採択されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当コースの採択は全国で本件のみであり、本事業を通じて、サプライチェーンと連携したカーボンニュートラルの取組みを更に推進するとともに、地域金融機関として、企業間のネットワークも構築・拡大していくことで、サプライチェーンで取り組むカーボンニュートラルの輪を広げる先導的な活動を実現してまいります。

記

1. 本事業の背景と目的

2050 年カーボンニュートラルを実現するためには、大企業のみならず中小企業も脱炭素化を進めていくことが必要であり、そのためには、中小企業の支援機関である地域金融機関や、地域経済を牽引する企業が連携してサポートする体制の構築が重要となります。本事業は、研修プログラムを通じて、GX 支援の知識・ノウハウを兼ね備えて対話・助言が可能な人材の育成や、GX 支援に向けた地域のネットワーク構築を支援する取組みです。本事業を通じて、幅広い企業がネットワークに参画し、支援機関や先導的な企業からの情報提供や知見のフィードバックにより、サプライチェーンで取り組むカーボンニュートラルの連携醸成に繋げることを期待されています。

2. 採択された事業・研修プログラムの概要

今回、福井銀行は、県内最大の工業団地である「テクノポート福井」をフィールドとして、本事業のコア参加者となるテクノポート福井企業協議会と連携し、プログラムを実施します。

プログラムでは、サプライチェーンエンゲージメント（企業が調達先と協力し、温室効果ガス削減に向けたコミュニケーションを促進する取組み）に対する理解を深め、参加者がサプライチェーン連携によるカーボンニュートラルに向けて先導的な役割を担っていくことを目指します。また、サプライチェーンで脱炭素の取組みを進めている企業として、福井鋳螺株式会社さまもコア参加者となり、同社の「対話を通じた寄り添い活動を通じて、同じ目線で一緒にカーボンニュートラルに取り組む」試みについて、ノウハウ・情報の共有を行います。

プログラムを通じて、サプライチェーンと連携したカーボンニュートラルを推し進めるための実践的かつ実効性の高い取組みを「共有知化」し、本事業で形成される GX 推進体制を通じて、取組みの横展開、地域への波及を目指してまいります。

申請者

- 地域内の中小・中堅企業の脱炭素経営に取り組む複数の支援機関等の代表者
 - 地方公共団体、商工会議所、地方金融機関、大企業等
- 地域の採択件数は20件程度とする

参加者

- 参加者はコア参加者とフリー参加者に分類
 - コア参加者：今後の地域の中核を担う支援機関として研修を通じた情報共有・意見交換による連携醸成を期待
 - フリー参加者：今後、地域の支援機関等ネットワークに参画予定/地域の支援体制構築に向けた先導的な役割（コア参加者よりも高い知見を保有する場合）等を想定

<地域1>

申請者

参加支援機関

a市

b地銀

c商工会議所

d信金

…

b地銀

企画部門 主査

企画部門

環境部門 課長

法人営業 課長

法人営業

…

コア参加者

フリー参加者

参加支援機関等の取組状況や獲得するケイパビリティに合わせて5つの研修コースを用意



特定産業向け
B2B企業の
集積地域

※コースアジェンダは一部変更となる可能性があります

以 上

令和7年度 中小企業に対する支援機関等の GX支援体制強化事業

事業概要

研修会を通じて地域でのGX経営支援ケイパビリティ向上を目指す

背景と目的



- 2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、中小・中堅企業においてはGXに取り組む必要性の理解は進んでいるものの、情報面・コスト面・人材面の制約等により、具体的な取組には至っていない企業も多い
- そうした中、各企業がGXの取組を進めるには、これらの企業と日頃から接している支援機関等が連携してサポートする体制の整備が重要になる
- 他方、支援機関等においても、GXの知識を持って企業と対話ができる人材の育成や支援機関同士のネットワーク構築、プッシュ型で働きかける支援体制の構築は課題
- 本事業では、中小企業に対して、地域の支援機関等がGXに取り組む必要性やメリット、具体的な取組方法などの対話・助言をする際に活かせるノウハウの習得を目的とした研修会の実施及び地域の支援体制の構築を支援する

採択地域

申請者

- 地域内の中小・中堅企業の脱炭素経営に取り組む複数の支援機関等の代表者
 - 地方公共団体、商工会議所、地方金融機関、大企業等
- 地域の採択件数は20件程度とする

参加者

- 参加者はコア参加者とフリー参加者に分類
 - コア参加者：今後の地域の中核を担う支援機関として研修を通じた情報共有・意見交換による連携醸成を期待
 - フリー参加者：今後、地域の支援機関等ネットワークに参画予定／地域の支援体制構築に向けた先導的な役割（コア参加者よりも高い知見を保有する場合）等を想定



<地域1>



申請者

参加支援機関



コア参加者

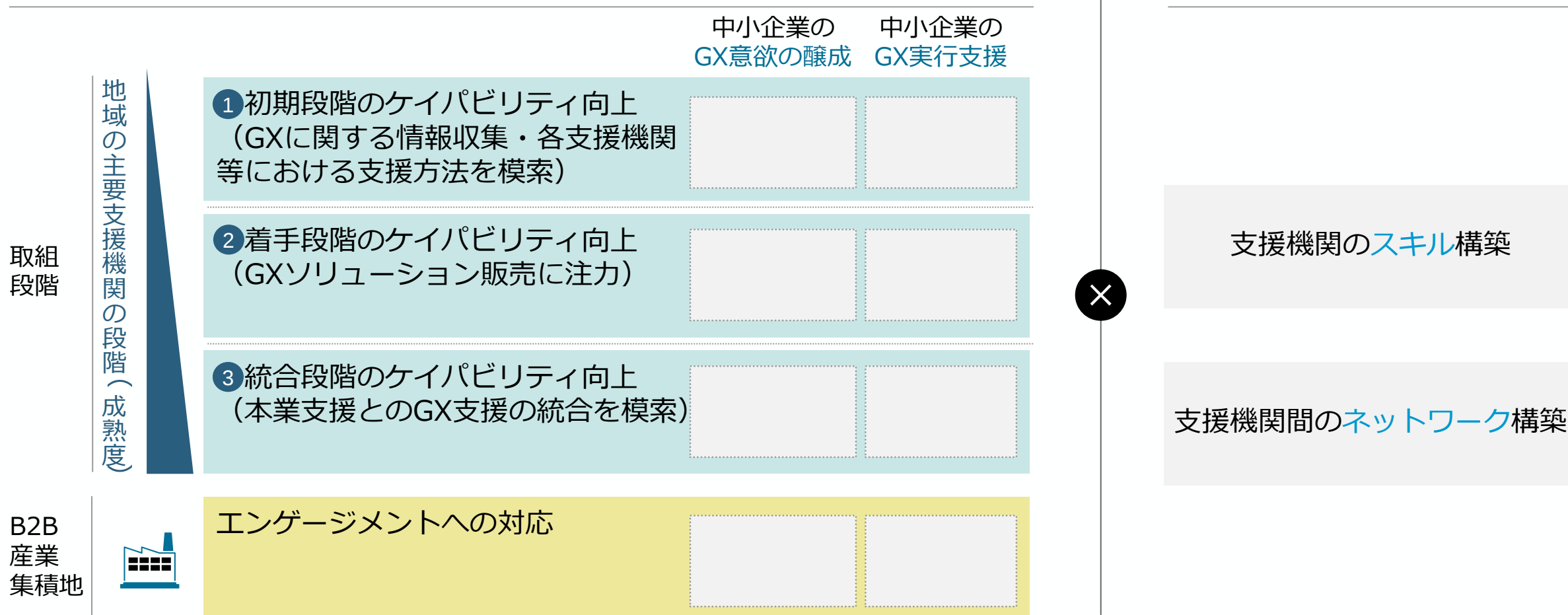
フリー参加者

研修プログラムの観点

研修プログラムによって何のスキルアップを目指すか・それをどのように実現するか観点で準備

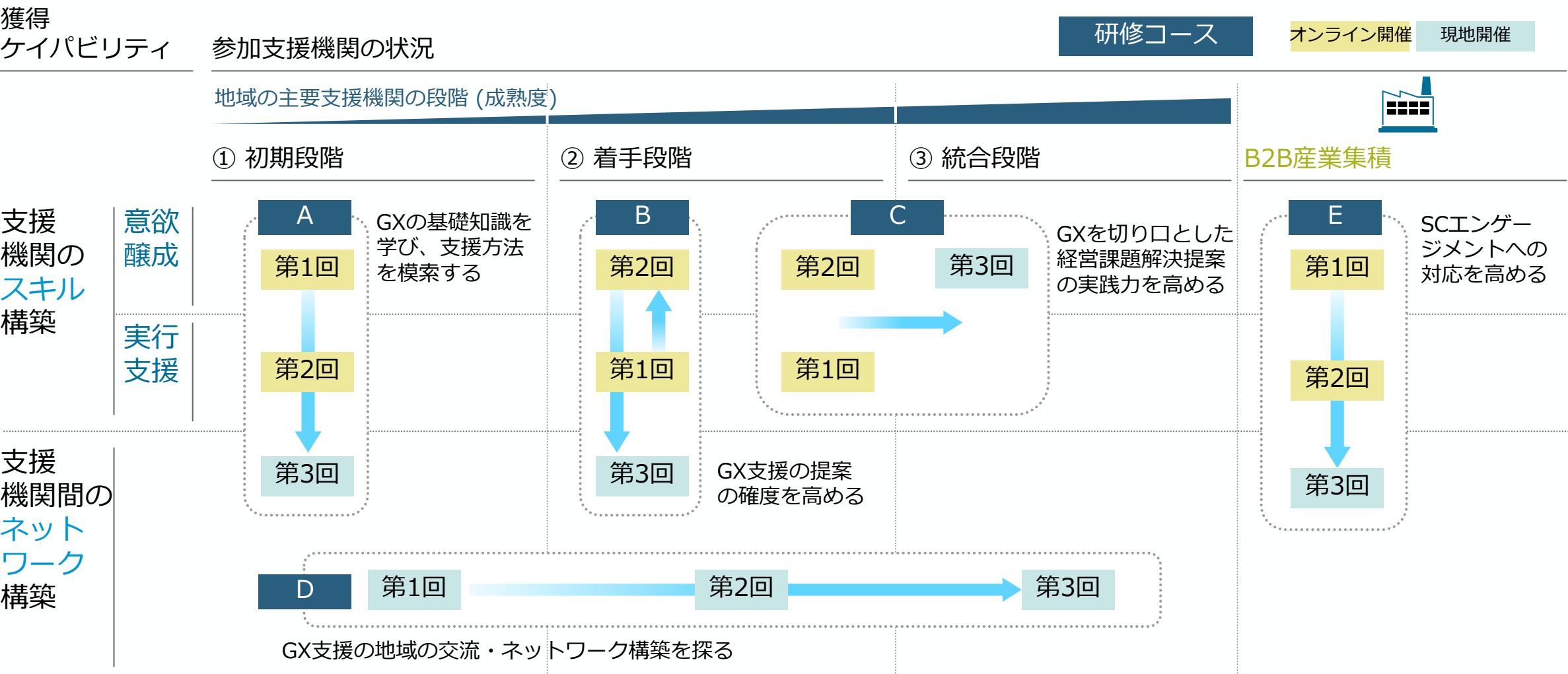
何のスキルアップを目指すか

どのように実現するか



各研修コースの位置づけ

参加支援機関等の取組状況や獲得するケイパビリティに合わせて5つの研修コースを用意



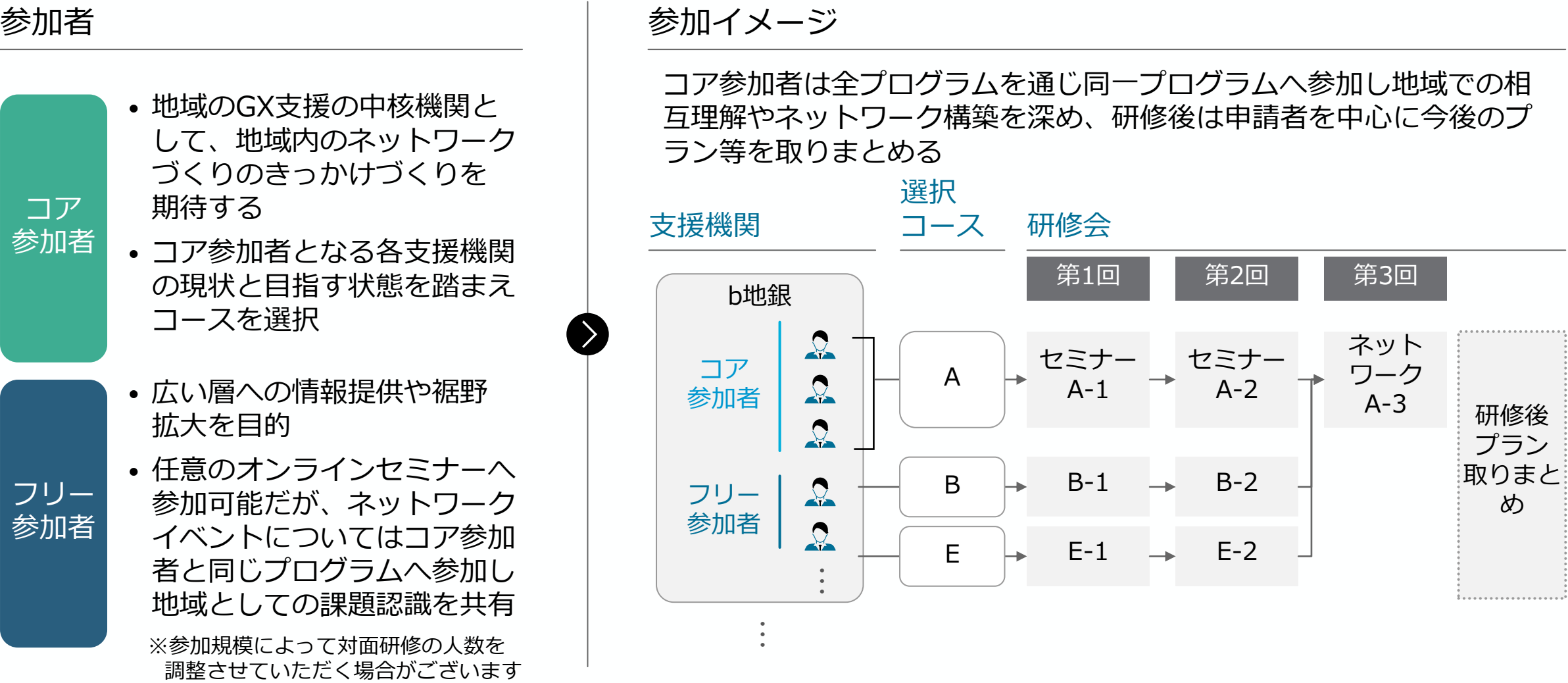
コース一覧

参加支援機関等の取組状況に合わせて5コースの中からお選びください

参加支援機関の主な課題	コース	プログラム構成（各回2時間程度を想定）	実施形態	
			オンライン開催	現地開催
- GXについて知見がなく企業と会話が難しい - 支援メニューが分からない - 自組織の長所を活かして何ができるか	A	GXの基礎知識を学び、支援方法を模索する 第1回：GXの基礎知識と中小企業の動向や課題 第2回：GX支援メニューの整備 第3回：地域支援機関同士の取組共有会	セミナー	セミナー ネットワークイベント
- 本業支援・経営支援機能とGXに係る施策がリンクしていない - 排出量算定・補助金紹介等はメニュー化しているが、利用が広がらない・利用しても後に続かない	B	GX支援の提案の確度を高める 第1回：企業に応じたGX実行(算定・削減)の効果的な提案 第2回：経営課題解決の切り口としてのGX経営 第3回：GX意欲醸成・支援機関-専門機関のマッチング	セミナー	セミナー ネットワークイベント
- 本業支援・経営支援機能とGXに係る施策がリンクしていない - 経営課題解決の切り口としてGX支援事例が出てきているが、広がりが限定的	C	GXを切り口とした経営課題解決提案の実践力を高める 第1回：企業に応じたGX実行(算定・削減)の提案の実践 第2回：経営課題解決の切り口としてのGX経営 第3回：経営課題解決の切り口としてのGX経営を促す実践アプローチ	セミナー	セミナー ワークショップ
足元の課題を単独で解決するのが難しい(地域のネットワークを活かして取組みたい)	D	GX支援の地域の交流・ネットワーク構築を探る 第1回：地域支援機関同士の取組共有会 第2回：GX意欲醸成・支援機関-専門機関のマッチング 第3回：経営課題解決の切り口としてのGX経営を促す実践アプローチ	ネットワークイベント	ネットワークイベント ネットワークイベント
- 取引先からの要請やその予兆を中小企業の取組の後押しに活用できていない - 取引先からの要請やその予兆に対して、支援をできていない	E	サプライチェーンエンゲージメントへの対応を高める 第1回：SCエンゲージメントの動向と中小企業の対応 第2回：SCエンゲージメントへの対応における支援機関の役割 第3回：地域の取引先-支援機関の意見交換	セミナー	セミナー ネットワークイベント

コア・フリー参加者の参加イメージ

コア参加者は地域のGX支援の中核的な機関として地域内のネットワークづくりの主導を期待、相互に同一コースを受講



コアメンバーの選定例

地域の特定機関の課題認識を起点にした声かけ、既存の枠組み等から参加者を選択いただくことを想定

	申請の背景 	コア参加者 
企業接点担当の 知見の底上げ	- GX支援に着手しているA行が、営業支店のGXへの知見への底上げに課題認識、本研修会を1つの学習機会と想定 - 同様な課題認識を持つ信用金庫B庫と共に申請 - 今後地域内で共同の学習機会を持つことも想定し、C市等にも声かけ	- 地銀A行 企画部門 主査、支店長2名 - 信金B庫 企画部門 課長、主任、支店長3名 - C市 環境部門 主査、産業部門 主査 - D商工会議所 産業部 部長
自治体の産業リード	- 自治体A市の産業部門が、GXを通じた地場産業の活性化を企図、本研修会をきっかけの一つとして想定 - 中小企業と接点があり、経営支援や金融支援の実行組織でもある商工会議所、産業振興センターや金融機関に声かけ	- A市 産業部門 主査、環境部門 主査 - 地銀B行 企画部門 課長、主任 - 信金C庫 企画部門 課長、支店長 - 産業振興センターD 主査 - E商工会議所 企業支援部
地域金融機関起点 のGX支援の展開	- GX支援を進めている地銀A行が、行政との連携を深めたいと考え、本研修会を地域のGXの課題認識の共通化や協業のきっかけとして捉える - B市に打診。B市からはC商工会議所も打診	- 地銀A行 企画部門 課長 - B市 環境部門 室長 - C商工会議所 経営支援部 次長
GX支援コンソーシアム の進化の足がかり	- 既存のGX支援コンソーシアムの事務局を務めるA市が、会員の多くの共通課題の解決のヒントを探りつつ、会員間での協業機会のきっかけになることを目的に参加を検討 - 会員に声かけ・参加趣旨を協議・コースを合意の上、参加	- A市 産業部門 主査、環境部門 主任 - 地銀B行 企画部門 主任 - 信金C庫 企画部門 課長、主査 - D商工会議所 経営支援部 主査
大企業との連携	- 自治体A市が、地場に集積する〇〇業界の中小企業におけるサプライチェーンエンゲージメントへの対応に課題認識 - 本研修会を、支援機関による中小企業に対するエンゲージメント対応の必要性理解と実行支援の知見獲得、取引先企業である大企業との認識共有の機会として捉える - 地銀C行・大企業Bに声かけ、参加可能性を確認の上、参加	- A市 産業部門 室長 - 大企業B 調達部門 課長 - 地銀C行 企画部門 主任 - 信金D庫 企画部門 主査 - E商工会議所 産業振興部 課長

開催の全体像イメージ

インプット中心のセミナーはオンラインでの共同開催、ネットワークイベントは現地個別開催を予定

コース		採択地域		第1回	第2回	第3回
A	GXの基礎知識を学び、支援方法を模索する	地域1	➤	セミナーA-1	セミナーA-2	ネットワークイベント A-3
		地域2				ネットワークイベント A-3
		地域3				ネットワークイベント A-3
		地域4				ネットワークイベント A-3
		地域5				ネットワークイベント A-3
B	GX支援の提案の確度を高める	地域6	➤	セミナーB/C-1	セミナーB/C-2	ネットワークイベント B-3
		地域7				ネットワークイベント B-3
		地域8				ネットワークイベント B-3
C	GXを切り口とした経営課題解決提案の実践力を高める	地域9	➤	セミナーB/C-1	セミナーB/C-2	ワークショップ C-3
		地域10				ワークショップ C-3
		地域11				ワークショップ C-3
		地域12				ワークショップ C-3
D	GX支援の地域の交流・ネットワーク構築を探る	地域13	➤	ネットワークイベント D-1	ネットワークイベント D-2	ネットワークイベント D-3
		地域14		ネットワークイベント D-1	ネットワークイベント D-2	ネットワークイベント D-3
		地域15		ネットワークイベント D-1	ネットワークイベント D-2	ネットワークイベント D-3
		地域16		ネットワークイベント D-1	ネットワークイベント D-2	ネットワークイベント D-3
		地域17		ネットワークイベント D-1	ネットワークイベント D-2	ネットワークイベント D-3
E	SCエンゲージメントへの対応を高める	地域18	➤	セミナーE-1	セミナーE-2	ネットワークイベント E-3
		地域19				ネットワークイベント E-3
		地域20				ネットワークイベント E-3

参考 | 取組段階別プログラムで目指すこと

地域の主要支援機関の段階（成熟度）

1 初期段階
(GXに関する情報収集・支援を模索)

支援機関の課題

- GXについて知見がなく・企業と会話が難しい
- 支援機関のGXの基礎の理解が不十分で適切な説明ができない
 - GXの経営メリットを具体的に伝えられず企業の関心を引けない

解決の方向性

- 企業接点の担当向けにGXの基礎知識を学ぶ
- GXの一般論の受け答えや省エネ等のシンプルなメリットの呼びかけができることを目指す

2 着手段階
(GXソリューション販売に注力)

- 本業支援・経営支援機能とGXに係る施策がリンクしていない
- 補助金の活用、老朽化設備の交換、という意欲に乗ずることが可能だが、本質的にGXの意欲醸成には至っていない

経営課題解決の方向性の引き出しを一定持つ

- 本業支援・経営支援の一環・切り口としてGXについて会話できることを目指す

3 統合段階
(本業支援との統合を模索)

- 経営課題解決の切り口としてGX支援事例が出てきているが、広がりが限定的
- 自地域の母数が限定的

営業の方法等をブラッシュアップ/既存事業・既存地域の枠を超えた活動を促す

- 経営者への関心・行動を進める確率を高めることを目指す

中小企業のGX意欲の醸成

支援機関の課題

- 支援メニューが分からない
- GXに関する支援メニューが整備されておらず、企業に適切なアドバイスができない
 - 企業が何から始めるべきか示すガイドラインや診断ツールが不足

解決の方向性

- 着手すべき支援メニューの特定や、外部連携を通じたメニューの幅だし
- 自機関で取り組むべき初期メニューを検討を開始できることを目指す

- 排出量算定・補助金紹介等はメニュー化しているが、利用が広がらない・利用しても後に続かない
- 顧客の業種・経営状況、排出量に応じた提案ができていない

取組を進めやすい企業や提案の方法を理解する

- 企業の関心に応じたGX実行・継続を提案できることを目指す

排出削減を実践する企業は一定出てきているが、広がりが限定的

- ROIに合う打ち手が限定的
- 企業のサプライチェーン対応をサポートが進んでいない

- 従来の支援の枠を超えた実行支援に転じるようなROI自体を高める手法を提供を模索する・サプライチェーン支援に企業と共同を模索する

参考 | B2B産業集積地向けプログラムで目指すこと



特定産業向
けのB2B
企業が集積
する地域

中小企業のGX意欲の醸成

支援機関の課題

取引先からの要請やその予兆
を中小企業の取組の後押し
に活用できていない

- SCエンゲージメントとはどのようなものを理解していない
- 中小企業に対する取引先からの要請の状況を把握していない
- 中小企業に対してなぜ要請や予兆に今、対応すべきかを説明できない

解決の方向性

SCエンゲージメントの実態や
対応をすべき理由を理解する

- 中小企業への要請に気づき、対応を促す会話ができることを目指す



中小企業のGX実行支援

支援機関の課題

取引先からの要請やその予兆
に対して、支援をできていない

- 取引先から中小企業への支援を把握していない
- SCエンゲージメントに対して、具体的なアクションを導くに至っていない

解決の方向性

SCエンゲージメントに対する支
援機関側の支援機会を理解
する

- 取引先から中小企業への要請と支援のギャップを把握し、支援を打診できることを目指す



参考 | 段階別のプログラム案1/3（概要）

① 初期段階
• GXに関する
情報収集・
支援を模索

初期段階の支援機関に対しては、GXの基礎・動向を学びつつ、自機関の支援メニューを検討するきっかけとなるプログラム ※コースアジェンダは一部変更となる可能性があります

中小企業のGX意欲の醸成

目的

- 企業接点の担当向けにGXの基礎知識を学ぶ
- GXの一般論の受け答えや省エネ等のシンプルなメリットの呼びかけができることを目指す



セミナー

「GXの基礎と企業の対応」

コースA 第1回

- GXの基礎・企業の対応
 - CNとは
 - 企業にとってのリスクと機会
 - 企業の対応の流れ
 - 自社及びサプライチェーンの排出削減 (Scope1-3)
- 中小企業のGX対応
 - 中小企業の取組動向
 - 中小企業が取り組む主な理由とその内容
- 脱炭素アドバイザーの紹介

中小企業のGX実行支援

着手すべき支援メニューの特定や、外部連携を通じたメニューの幅だし

- 自機関で取り組むべき初期メニューの検討を開始できることを目指す



「GX支援メニューの整備」

コースA 第2回

- GX支援メニューの全体像
 - 支援機関のタイプと求められる役割
 - GX支援メニューの全体像
- 各サービスのご紹介
 - 排出量算定に向けたツール・サービス/支援機関に求められる役割
 - 省エネ診断サービス/支援機関に求められる役割
 - 設備導入・運用サービス/支援機関に求められる役割(PPA, ESCO等)
- 地域の支援を補完するサービス
- 国の各種支援の紹介

ネットワーク イベント

「地域支援機関同士の取組共有会」

コースA 第3回

コースD 第1回

- 支援機関同士の取組や課題認識の共有
- 支援機関同士の連携パターン・事例の共有
- 地域内支援のマップ作成ワークショップ
- アクションプラン作成

参考 | 段階別のプログラム案2/3（概要）

② 着手段階
・GXソリューション販売に注力

着手段階の支援機関に対しては、経営課題解決に繋がるGX支援の取組を開始、排出量算定・削減の提案の確度が高まることを目指すプログラム ※コースアジェンダは一部変更となる可能性があります

中小企業のGX意欲の醸成

目的

経営課題解決の方向性の引き出しを一定持つ

- ・ 本業支援・経営支援の一環・切り口としてGXを会話できることを目指す



セミナー

「経営課題解決の切り口としてのGX経営」

コースB・C 第2回

- ・ 中小企業セグメントの考え方
- ・ マクロ視点のアプローチ
 - 企業への影響となる動向
 - 業界に応じたリスク・チャンス
- ・ ミクロ視点のアプローチ
 - GXを切り口とした経営課題解決とは
 - GXを切り口とした経営課題解決のパターンや事例
 - 上記を提案すべき中小企業の見分け方
- ・ 支援機関同士の連携

中小企業のGX実行支援

取組を進めやすい企業や提案の方法を理解する

- ・ 企業の関心に応じたGX実行・継続を提案できることを目指す



「企業に応じたGX実行(算定・削減)の効果的な提案」

コースB・C 第1回

- ・ GX支援メニューの全体像
- ・ 排出量算定
 - 排出量算定を行う企業の特徴・きっかけ
 - 排出量算定の利用が広がっている地域の事例（報告制度との連動 等）
- ・ エネルギー診断
 - エネルギー診断を行う企業の特徴・きっかけ
 - 業種別に採用が多い削減策
 - エネルギー診断の利用が広がっている地域の事例
- ・ 省エネ・再エネ導入に繋がっている事例
 - 一般的に排出削減・コスト削減（ROI）の高い施策の理解
 - リース・PPA・ESCO等の初期投資ゼロの導入の適性

ネットワークイベント

「GX意欲醸成・支援機関-専門機関のマッチング」

コースB 第3回

コースD 第2回

- ・ 地域の本業支援・経営支援担当者による、地域企業の主要経営課題の共有
- ・ 支援機関と専門機関（排出量算定、省エネ診断 等）とのマッチング
- ・ 今後のプランと実現に向けたファーストアクション

参考 | 段階別のプログラム案3/3（概要）

③ 統合段階
・本業支援
との統合
を模索

統合段階の支援機関に対しては、現在行う経営課題解決に繋がるGX支援の確度を高め、排出削減について他と連携する新たな削減の枠組みを議論するプログラム ※コースアジェンダは一部変更となる可能性があります

中小企業のGX意欲の醸成

目的

営業の方法等をブラッシュアップ/既存事業・既存地域の枠を超えた活動を促す

- ・経営者への関心・行動を進める確率を高めることを目指す

ワーク ショップ

「経営課題解決の切り口としてのGX経営を 促す実践アプローチ」

コースC 第3回

- ・仮説立案ケーススタディ・ワークショップ
- ・「GXを切り口とした経営課題解決後押し」メソッド(仮)の紹介・試行
 - 経営者タイプ、業界別等のトークの仕方・示すべきファクト 等紹介
 - GX経営に取り組んだ経営者の行動経路紹介
 - 訪問時会話のロールプレイ
- ・今後のプラン

ネットワー クイベント

「支援機関同士の連携・協業の検討」

コースD 第3回

- ・GX意欲醸成機能の連携
 - 地域の本業支援・経営支援担当者と支援機関のマッチング
- ・GX実行支援機能の連携
 - 地域の支援機関の協業による中小企業のGX実行のハードル低減事例
 - 支援機関の協業の取組（共同調達（グリーン電力・設備投資）、共同物流、クレジット創出、ワンストップ窓口 等）に関するディスカッション
- ・今後のプランと実現に向けたファーストアクション

中小企業のGX実行支援

従来の支援の枠を超えた実行支援に転じるようなROI自体を高める手法を提供を模索する・サプライチェーン支援に企業と共同を模索する

na

参考 | B2B産業集積向けプログラム案（概要）



特定産業向け
B2B企業の
集積地域

着手段階の支援機関に対しては、経営課題解決に繋がるGX支援の取組を開始、排出量算定・削減の提案の確度が高まることを目指すプログラム ※コースアジェンダは一部変更となる可能性があります

中小企業のGX意欲の醸成

目的

SCエンゲージメントの実態や対応をすべき理由を理解する

- 中小企業への要請に気づき、対応を促す会話ができることを目指す



セミナー

「SCエンゲージメントの動向と中小企業の対応」

コースE 第1回

- SCエンゲージメントとは
 - サプライチェーンの排出削減 (Scope3)
 - SCエンゲージメントとは
- SCからの要請のパターン、業界別の動向
- SSBJをはじめとしたエンゲージメントの動向

中小企業のGX実行支援

SCエンゲージメントに対する支援機関側の支援機会を理解する

- 取引先から中小企業への要請と支援のギャップを把握し、支援を打診できることを目指す



「SCエンゲージメントへの対応における支援機関の役割」

コースE 第2回

- 取引先からの支援、要請とのギャップの状況
- 主な取引先の要請に関する実践方法の解説
- 取引先と支援機関の連携の可能性
 - 取引先大企業と支援機関の連携によるメリット仮説
 - 取引先大企業と支援機関の連携事例

ネットワークイベント

「地域の取引先-支援機関の意見交換」

コースE 第3回

- 取引先企業による説明
 - 取引先におけるエンゲージメントの課題
 - 取引先が支援先に求めること
- 連携の可能性
 - 取引先大企業と支援機関の連携事例
 - 取引先と支援機関の連携の可能性・課題の討議
- 今後のプランと実現に向けたファーストアクション

評価項目

評価項目や選択コース、地域バランス等を勘案しつつ、採択先をバランスよく選定

1

コア参加者のGX支援における「課題」の明確性

2

コア参加者のGX支援におけるスキル面・ネットワーク面での「達成したいこと」の明確性・合理性・持続性

3

各参加支援機関との①②に対する合意状況

特定産業B2B集積地の場合

地域企業の主要取引先である大企業との「地域の取引先-支援機関の意見交換」への参画に関する協議状況

研修会の流れ

採択地域では、7月以降順次研修会を実施

